

(電子メール施行)
農 技 第 1224 号
平成30年7月23日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成30年度病虫害発生予報第3号を発表します。

平成30年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	やや少	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	縞葉枯病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	平年並	やや少
	セジロウンカ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや少
	イネツトムシ	平年並	やや少
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
コブノメイガ	やや少	少	
ナシ	黒斑病	平年並	やや多
	黒星病	平年並	平年並
	シンクイムシ類	やや多	平年並
	ハマキムシ類	やや少	少
	ハダニ類	やや多	平年並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	カメムシ類	やや多	やや多
野菜共通	ハイマダラノメイガ	平年並	少
	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
	シロイチモジヨトウ	やや多	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報
(7月21日から8月20日までの天候見通し)

平成30年7月19日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温のかなり高い状態が続く見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

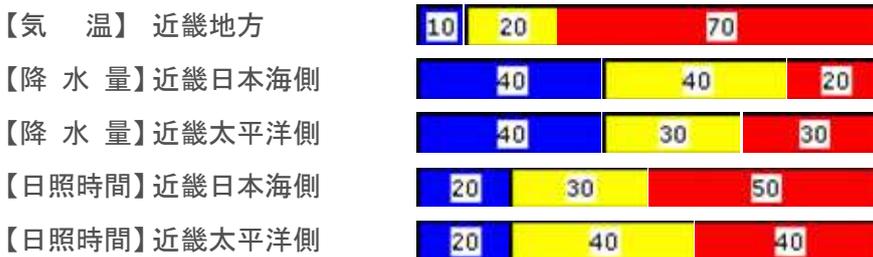
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で多い確率50%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 7月21日(土)～ 8月20日(月)
- 1週目 : 7月21日(土)～ 7月27日(金)
- 2週目 : 7月28日(土)～ 8月 3日(金)
- 3～4週目 : 8月 4日(土)～ 8月17日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 7月上中旬の予察ほ場では発病は確認していないが、現地調査では、発病ほ場率4%(昨年値6.7%)とわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少なく、やや少ない発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上中旬の予察ほ場では発病は確認していないが、6月下旬の現地調査では、発病ほ場率0.2%(前年値0%)であり、その周辺ほ場でもやや少ない発生が確認されている。

イ 今後、気温の上昇と共に本病の水平・垂直進展が進み、発病は増加すると、平年並に発生すると予想される。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並（一部地域でやや多）
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発生は認めていないが、巡回調査では発生が認められた。5月下旬～6月上旬にコムギの調査定点から採集したヒメトビウンカ第1世代虫の本病ウイルス保毒虫率は、平均2.0%と昨年(1.4%)に比べやや高かった。県西部で平均より高い傾向がみられている。

イ イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの発生が平年並と予想され、県全体としては平年並であるが、保毒虫率の高い地域ではやや多くなると考えられる。

(3) その他

今年度の第1世代虫(コムギ採集個体)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病虫害防除所ホームページ

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)を参照されたい。

4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 6月下旬の現地調査では、発生地点率4.8%(前年値6.5%)とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、ヒメトビウンカの増殖好適条件となるため密度増加が進むと考えられる。

5 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 朝来市、加西市、南あわじ市の3カ所に設置している予察灯の調査では、6月1半旬～7月6半旬までのセジロウンカの誘殺数は、加西市0頭(昨年値0頭)、南あわじ市1頭(昨年1頭)、朝来市1頭(昨年0頭)であった。現地調査では、発生ほ場率7.4%(前年値7.7%)であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、発生は増加すると考えられる。本虫は「夏ウンカ」として知られ、盛夏以降密度は減少する。

6 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯への飛来および現地調査ではまだ発生が確認されていない。

イ セジロウンカと同時飛来している可能性があり、今後、発生する恐れがある。

7 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発生を認めていないが、現地調査ではやや少ないながら発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の密度増加が進むと考えられる。

8 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯へ飛来および現地調査では、7月上旬では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生を確認している。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖が進むと考えられる。

9 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場において発生は認めていないが、現地調査では一部の地域で発生を確認されている。

イ 今後、高温が続くことが予想されるため、密度増加が進むと考えられる。

10 【フタオビコヤガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場での発生は確認していないが、現地調査では、発生地点率0.13%(前年値0.4%)とやや少ない発生を確認している。

イ 今後はイネの成長に伴い食害適期を過ぎるため、増殖が抑制されると考えられる。

11 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯への飛来および現地調査での発生はまだ確認されていない。

イ セジロウンカと同時飛来している可能性があり、今後、発生する恐れがある。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 6月下旬の場内調査で短果枝の発病葉率12.8%(平年値2.8%)、発生ほ場率66.7%(平年値50.0%)と多い傾向であったが、7月上旬の調査は短果枝の発病葉率8.9%(平年値4.4%)とやや減少している。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病は高温少雨により抑制され平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内調査でわずかに発生を確認している。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【シンクイムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 加西市のフェロモントラップ調査での誘殺数は、7月3半旬のナシヒメシンクイは4.4頭(前年値3.7)であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の発生が助長されると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種の被害は収穫時期の遅い品種ほど受けやすくなる。

イ ナシ園付近のウメ、サクラ、スモモなどの新梢折れや、ナシの被害果は速やか

に摘除をおこなう。

ウ ナシ園の周囲のウメ等も同時に防除すると効果的である。なお、スピードスプレーヤーを使用した防除では、ドリフトしやすいので、風のない日に飛散防止対策等をおこなった上で散布する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

4 【ハマキムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬までの加西市のフェロモントラップ調査では誘殺は認めていないが、例年8月以降に誘殺を確認しており、今後発生が予想される。

5 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内調査では、寄生葉率30.8%（平年値26.5%）、発生ほ場率66.7%（平年値62.5%）と平年並の状態であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、ハダニ類に好適な条件が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 早期発見に努め、早期の防除を実施する。

イ 農薬散布時は、薬液が葉茎に十分かかるように不要な徒長枝を剪去し、ていねいに防除する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

6 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内調査では、寄生葉率10.0%（平年値3.1%）、発生ほ場率33.3%（平年値26.5%）とやや多い状態であった。

イ アブラムシ類の発生最盛期を過ぎていることから、今後は現在の発生状態で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア アブラムシ類は、すす病の発生原因となるため、発生が見られたら早期の防除に努める。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

ム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 誘致植物のクレオメでの調査では、7月3半旬の寄生シュート(花枝)率が0%
(過去5年の平均値2.4%)と発生が認められなかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されている。本種は例年8月以降密度増加が見られており、また、夏季の高温少雨の年に発生しやすい傾向がみられており、今後、被害に対する注意が必要である。

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ調査での誘殺数は、加西市では7月4半旬に1.7頭(前年値44頭)、南あわじ市では0.6頭(前年値0.8頭)とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく予想されており、8月以降発生が増加すると考えられる。

3 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ調査での誘殺数は、加西市では7月2半旬に0.6頭(昨年値19.3頭)と少なかった。昨年度、秋に多発生した淡路島の現地ほ場5地点では、平均45.4頭(最小値1.8頭、最高値109頭)と加西市より多い誘殺数がみられているほか、一部の地域では幼虫の加害が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、育苗中及び定植直後の被害に特に注意すること。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

果樹共通

1 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア カメムシ類は、園地への飛来が多い年(表年)と少ない年(裏年)を隔年で繰り返す傾向があり、本年は表年に該当する。朝来市のフェロモントラップ調査では、5月6半旬～7月2半旬のチャバネアオカメムシの合計誘殺数は219頭(前年値117頭)とやや多かった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、チャバネアオカメムシのほか、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシも活動が盛んになると考えられるので、果実の被害に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬液散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>